

【研究科題名】

国民健康保険データベースを用いた多疾患併存と医療費に関する研究

【研究等責任者】

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科地域医療学教授

前田 隆浩

【研究目的・内容】

人口の高齢化に伴って、疾病構造は多くの疾患を併存（多疾患併存）へと変化してきている。多疾患併存は、高血圧症、脂質異常症、気管支喘息などの2つ以上の慢性疾患を有する状態と定義される。地域の一般人口集団における多疾患併存の割合は、年齢とともに上昇し、70歳代では5割を超える。医療機関で適切に疾患管理ガイドラインの推奨項目を遵守した場合、薬剤数、医療費などが高くなることが指摘されており、多疾患併存の割合が高い人口集団では、単一疾患の疾患管理ガイドラインは必ずしも有効ではない。

また、多疾患併存は、外来医療費、入院、死亡率、医療機関利用頻度、身体機能低下と関連があることがこれまでの欧米の研究で明らかにされてきている。単一疾患を予防、診断、治療していく疾病対策から、複合的な視点で対策を行う必要性が増していると言える。しかし、多疾患併存に対して公衆衛生の視座で具体的な対策につながる知見は乏しい。

平成25年6月の閣議決定により、市町村国民健康保険は特定健康診査や診療報酬明細書等の電子化データの基盤（国民健康保険データベースシステム；KDBシステム）を整備し、健康増進のための保健事業実施計画の策定する責任主体となった。本研究の目的は、KDBシステムを用いて多疾患併存と医療費に関わる分析を行い、新たな疾病予防に関する知見を明らかにすることである。

【研究方法】

本研究申請者は、平成29年11月13日にデータの提供元である五島市国保健康政策課からデータヘルス計画策定に伴うデータ分析協力（29五国第2989号）の依頼を受け、五島市第二期データヘルス計画に有識者として参加・協力をしている。本研究においては、これらの匿名化データを利用して実施する。研究分担者である五島市国保健康政策課は、提供した匿名化データを分析、公表することを承認している。解析方法は、疾患併存数と種類について、1年間の総医療費との関連をオッズ比など用いて評価する。

【研究対象者及びデータ】

研究対象者は、平成28年9月から平成29年9月までにKDBシステムデータに登録された症例（およそ8000例）である。データ抽出方法は、五島市のKDBデータシステムに登録された診療報酬明細書データを元に、対象期間に発生した全レセプトデータを抽出し、解析する。除外基準はデータの欠損のある場合除外する。

対象となるデータは、年齢、性別、医療費、医療資源病名などである。

【研究期間】

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科倫理委員会承認日から平成32年3月31日まで

【個人情報等の保護の方法】

研究対象者の氏名、住所、生年月日などの個人情報、研究者が五島市国保健康政策課からデータ提供を受ける時点で削除することにより匿名化される。研究者は、個人情報を削除したデータの提供を受けて解析に用いることで個人情報を保護する。

【倫理的問題点等】

本研究はヘルシンキ宣言及び人を対象とする医学系研究に関する倫理指針に従い実施されるが、倫理的問題点として個人情報漏洩のおそれが考えられる。

【予測されるリスク及び利益、これらの総合的評価並びに当該負担及びリスクを最小化する対策】

本研究への参加によって生じる危険性は、個人情報漏洩が考えられるが、その対策として五島市国保健康政策課よりデータ提供を受ける時点で個人情報を削除することにより個人情報漏洩のリスクを低減する対策を講じる。本研究への参加によって生じる利益は、直接的にはないが、五島市の健康増進のための保健事業実施計画の策定において有用な知見が得られる可能性があるため、間接的には参加の利益があると考えられる。以上のことから、対象者に対しての利益及び配慮等から総合的に判断し、倫理的に問題はないと考えられる。

【研究等の期間及び当該期間終了後の試料・情報の保管及び廃棄の方法】

匿名化した研究データは、パスワード付きのパソコンで保管し、研究終了時に破棄する。

【研究の資金源等、研究機関の研究に係る利益相反及び個人の収益等、研究者等の研究に係る利益相反に関する状況】

本研究に係る資金はない。利益相反はない。

【研究に関する情報公開の方法及び研究結果の帰属】

本研究成果は、学会や医学雑誌等により公表をする。本研究成果は研究者に帰属する。

【研究に関する連絡先】

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科離島・へき地医療学助教

山梨啓友

電話0959-74-2673

E-mail: yamanashi@nagasaki-u.ac.jp